

光明寺だより

第72号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583

このたびの東日本大震災により
被災されたすべての皆さまに
心よりお見舞い申し上げます
また
この災害で命を失われた方々と
ご遺族に対し謹んで哀悼の意を
表します



宗祖 降誕会

5月28日(土)

おつとめ 午後1時30分

おはなし 午後2時

【講師】 兵庫教区・安養寺住職
布教同士会会長

足利孝之先生

一口法話

大震災に寄せて

―日本人の気質―



3月11日、日本の観測史上最大規模となる、マグニチュード9・0という大地震が東日本を襲いました。

最大三十メートルを越す大津波は北海道から関東に及ぶ太平洋岸の町や村を呑み込み、数知れぬ人々と家屋を押し流していきました。

テレビ画面に映し出されたその光景は、私たちのいかなる想像力も及ばない恐ろしいもので、まさに地獄絵図の様相を呈していました。

絶対安全と言われた原子力発電所も自然の猛威の前には余りにも脆く、被災地は放射能汚染という最も恐れていた二次災害の危険にさらされています。加えて風評被害は人々に更なる苦しみを与えています。

しかし被災者の皆さんは、そんな絶望的な状況下でありながらも、辛抱強く、慎ましく、礼節を失わず、しかも周りを気遣う優しさを忘れていませんでした。その気高い姿に多くの国民は涙しました。

それは、久しく失いかけていた日本人の心―礼節を重んじる心・私より公を重んじる心・相手を思いやる心、和を尊ぶ心等々―を目に見える形で私たちに気づかせてくれたのです。

海外のメディアは、このような日本人の姿を、驚きと敬意を込めて伝えていました。

★日本がこんなことになるなんて…。本当に素晴らしい国民で働きもので、世界の経済に貢献してきたのに。再興には時間がかかるだろうが、僕達に分かるのはきつとさらに強くなって復活するだろうことを…。

(ロンドン)

★信じられないよ、同じことがロサンゼルスだったら考えられないことだ。パニックや興奮した群衆によって暴力や略奪行為が起きるに違いない。日本人の高貴な哲学が

この結果だ。西欧の自分たちが最も学ぶべきところである
(アメリカ)

もとより、日本人のこうした高品位の気質は、今に始まったものではありません。

大航海時代(約450年前・日本は戦国時代)日本を訪れた宣教師たちが一様に、日本人の知性や道徳は世界最高であると、本国に報告していたことはよく知られた歴史的事実です。

(*註参照)

この気質の源泉は遠く千五百年前、聖徳太子によって唱えられた「和」の心まで遡ることが出来ます。

古代国家成立に際し、「和」の心を国家の理念として、初めてそれを明文化したのが、聖徳太子制定の十七条憲法です。

仏教的思想を背景に制定されたこの十七条憲法・第一条「和を以って貴しとなす」という、「和」の心こそ、その後、長く人々の精神基盤となつて、日本の社会を作り上げてきたものです。



「和」の心は「共に歩む心」です。それはまた、「相手を思いやる心」、「礼節を重んじる心」、「個人より共同体を重んじる心」、「事あるときは一つになって立ち向かう心」などにつながる心です。

震災から一月余りたった四月中旬、かろうじて難を逃れた老人にテレビのレポーターが「助かってよかったですね」と声をかけていました。

その問いかけに、
「自分だけでもダメだ 人は助けたり助けられたりだ……」
と、自問自答するように答えています。

この言葉に、この老人が如何に「和」の心を大切にしながら今日まで生きてきたかよくわかります。

「自分さえよければ……」ではないのです。「みんながよくなって、初めて自分も幸せになれる。それは、お互い助け合いながら生きてきたからだ」と言っているのです。

これは東北地方に生きる人々に共通した生き方（人生観）で、本当に教え

られます。

震災からやがて二ヶ月を迎えます。

家族を失い、家を失い、仕事を失い、明日への希望も見出せない中、それでもなお復興に向けて長い道を歩んでいかねばならない被災者の苦しみを思う時、察して余りあるものがあります。しかし、あえてそれを承知の上で申し上げたいと思います。

「どうか希望を捨てずに前を向いて歩いてください」

被災者の皆さんが見せた気高い姿は、多くの日本人が失いかけていた自信と誇りを甦らせてくれたのです。このことを、私たちは誇りをもって、次代を担う子供たちに伝えていかねばならないと思います。

そうしてこのような素晴らしい日本人の心が取り戻された時、本当の意味で豊かな日本に生まれ変わるのです。



(*註) 宣教師たちが見た日本人

★この国民は自分たちがこれまで接触してきた諸国民の中で最高に傑出した人々である。善良で、礼儀を重んじ、何よりも名譽を大切にすることは驚くべきことである
フランシスコザビエル

★日本人は全世界で最も賢明な国民に属しており、彼らは喜んで理性に従うので、我ら一同よりはるかに優れている。忍耐強く、真摯にして信心深く、儀礼に大いに気をつかい、交際においては丁寧である。私は日本語がわかるようになってからは、世界にかくも聡明で明敏な人々はいないと考えるに至った
オルガンティノ（イタリア人宣教師）

★上は武士から下は町人に至るまで、礼儀正しく弱いものを助ける美しい心を持っている。忠義と孝行が尊ばれ、これほど精神の美しさを持つ民族を見たことがない

ニコライ（ロシア人宣教師）

特集

親鸞聖人750回大遠忌法要

さる4月16日(土)、西条組5ヶ寺・総勢180名(光明寺からは34名)による「親鸞聖人750回大遠忌法要」の団体参拝を実施いたしました。



ご門主(右)と新門さま(左)

3千余名の参拝者で満堂になったご影堂で、午後2時より橘正信総長の挨拶・記念法話などがあり、続いて午後2時30分より高さ6メートルの大太鼓に合わせて180名の僧侶、奏楽員等が入堂、新門さまが尊前で焼香された後、ご門主の御導師で「宗祖讃仰作法」による音楽法要が修行されました。

門侶の称えるお念仏の聲が堂内に響き渡る中、雅楽とオルガンの音色を織り交ぜた音楽法要はまことに荘厳で、深い感動を覚えました。

法要の後、ご門主、新門さまが夫々お言葉を述べられ、東日本大震災で亡くなった方への哀悼の思いと被災者へのお見舞いと共に、お念仏に生きることの意味を確かめ、御恩報謝の生活に励むことの大切さを示されました。



4月9日から始まった大遠忌法要は来年1月16日まで65日115座にわたり厳修されます。4月は9日から16日までの8日間の日程で行われ、期間中約5万5千人の参拝者がありました。

我々西条組の一行は、本山のお参りを終えた翌17日、親鸞聖人のご廟(お墓)である大谷本廟をお参り、続いて聖人ご修行の地である比叡山を訪れ、根本中堂、大講堂等をお参りしました。

両日とも素晴らしいお天気に恵まれ、穏やかな春の陽射しを受けながら、50年に一度のご勝縁を喜ぶとともに、お念仏のみ教えを讃えるひと時を過ごすことができました。



高さ6メートルの大太鼓(1対になっています)



ゆるキャラ「りんちゃん」



御影堂前の白洲に集まる参拝者の皆さん



3千余名の参拝者で埋め尽くされた御影堂



親睦聖人750回大進品法要 四州教区西条組 光明寺 平成23年4月16日 於 本願寺

西条仏教会「東日本大震災追悼法要」を厳修

東日本大震災発生から1ヶ月になる4月11日、お旅所の戦没者忠霊塔前広場で西条仏教会による大震災追悼法要がとり行われました。

その時の模様が「愛媛新聞」に掲載されました。(下記参照)



東日本大震災と戦没者の冥福を祈って焼香する参列者—11日午後2時半ごろ、西条市大町

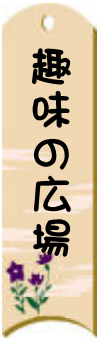
震災と戦没者
合同追悼法要
西条仏教会

東日本大震災の発生から1カ月を迎え、西条仏教会（18力寺、入江一安会長）は11日、西条市大町の忠霊塔前広場で犠牲者の追悼法要を執り行った。

同会は毎年4月ごろに、戦没者の法要を行っており、今回は大震災から1カ月の節目にあたることから合同で供養した。

市遺族会西条地区の会員ら約30人が参加。大震災と戦没者の各犠牲者の位牌（いはい）が安置された祭壇の前で、僧侶10人が読経する中、参加者は次々と焼香し、犠牲者の冥福を祈った。

入江会長（66）は「震災で犠牲となった遺族の苦しみや悲しみに心を寄せ、一日も早い復興を願いたい」と話した。（松下和人）



俳句を楽しむ(五十一)

森本隆を

このあたりでもそろそろタケノコの季節になりました。三月中旬ごろ、近くのスーパーで二十センチ程の筍が一本千円余りの値段で売られていてびっくりしました。あと一ヶ月もすれば毎日の様にあちこちから届けて貰えるのに……と思わず笑ってしまいました。今回は筍の句を何句かご紹介します。

筍のまだ濡れている棹秤たねばかり 竹村志計留
筍の日の目見ぬまま掘られけり熊谷露草
傷深く受けて筍横たはる 保坂 リエ

よく、筍は朝掘りのものが一番、と言われます。一、二句めはその事を詠んでいます。朝露のしっとりおりているうちに掘り取り、筍売りの棹秤も筍の露に濡れている。朝掘りの掘り立を買って手早くゆでることが筍を美味しく食べるコツだと言っているのでしょう。掘るのに不馴れな人が掘ると三句めに詠まれている筍のような姿になり、筍そのものより掘り手のほうが冷やかに見ら

れます。

後藤 立夫
立夫

石田 波郷
波郷

水原秋櫻子
秋櫻子

大鍋に水

を張り、筍を入れ、少々の米ヌカと唐辛子を

一、二本落として茹でる。けつこう時間のか

かる下手間なのですが、既にその時間から筍

を楽しんでいる様子がよく見て取れる句です。

三句目についての解説を見ると、「朝からの雨

で散歩に出ることも出来ず所在なくしている

ところへ、京都から筍が届いた。思わず家人

に、夜は筍だね、と声をかける。作者の、雨

ごもりの一日の屈託が晴れた思いの句。」俳句

の大先生も食べ物には弱いのですね。

筍といえば京都、というのが日本では定番

の様になっています。去年の四月上旬、京都

は祇園の小さなカウンター割烹の店で食事を

したことがあったのですが、その折に、店の

主人兼料理人から京都の筍自慢を散々聞かさ

れました。曰く、「嵯峨から西山のすその大山

崎あたりまで竹藪が続き、京の筍どころであ

る。とりわけ、西京区塚原の筍は絶品で京で

も一番。いわゆる肉白の乙訓の筍といったと

ても有名でブランド筍である。」といった具合

でした。言うだけあって店の品書きにも「姫

皮のおぼろすまし」とか「若竹ご飯」などと

都の料理人の、京都産の筍にかける思いを

たっぷり聞かされた一タでした。

しかしここで一言。この西条にもあります。

ブランドでも何でもありませんが味と柔らか

さではどこよりも勝る筍があるのです。それ

は「所藪の筍」です。里山の北面の竹藪に生

えますから時期はよそよりやや遅く、五月の

ゴールデンウィーク頃が出盛りです。私も、

普段は見向きもせず荒れ放題で近所迷惑な我

が家の竹藪へ入り、筍を掘っては賞味します。

薄く切って塩胡椒だけでさつと炒めた筍のス

テーキは絶品です。筍の句へもどります。

竹の子の一本にして重かりし 高浜 年尾

筍の光放ってむかれたり 渡辺 水巴

歳時記所収の筍の例句の中では名句と思わ

れる二句です。俳人の感覚の鋭さにハッとさ

せられる様な句ですね。筍の重さと身の色を

感じたまま詠んだだけでそのまま代表作と

なった、そのすこさに脱帽です。



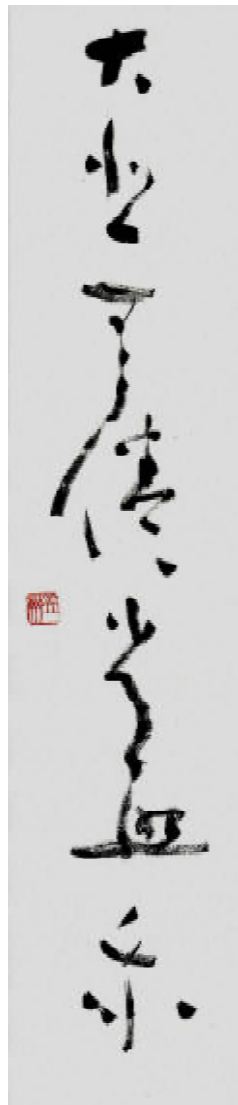
住職書作品



本文―大悲無倦常照我

読み―大悲、倦きことなくして、常に我を照らしたもう

意味―阿弥陀さまの大悲の光は、決して見捨てることなく私を照らしてください



心に残る詩

平成23年3月11日
午後2時46分

福島県 阿部正栄

62

この日まで一滴の水が
体の奥までしみわたる
喜びを知らなかった

この時まで一個の
あめ玉を分けてなめる
幸せを知らなかった



つぶれたわが家
地割れした道路から
真っ青な空を見上げる
北帰行の白鳥たちが
はげましの泣き声あげて
飛んで行く

義援金募集

宗門では義援金の受付を始めています
ご協力よろしく申し上げます

郵便振替 010000-4-69957
加入者名 たすけあい募金

通信欄に「東北地震」とご記入下さい

お知らせ

★バックナンバーのお知らせ

「光明寺だより」1号〜71号

一部・25円(送料120円)

「テレフォン法話集」第一〜七集

一部・300円(送料120円)

言葉のプレゼント

「死」とは
大自然より与えられた生命が
元の大自然にかえり
再び大自然の建設に参画する
これは「無」にかえるのではなく
新しい大自然の創造に
参加するのである

元京大総長 平沢興

テレフォン法話
0897-53-4585



「光明寺だより」をご家族の
皆さんでお読み下さい

次回発送予定ー7月中旬



★4月16・17日、西条組5ヶ寺合同
(180名)で「親鸞聖人750回大
遠忌法要」に参拝いたしました。

(*関連記事4ページ)

★4月11日、お旅所・忠霊塔前で西
条仏教会による「東日本大震災追悼
法要」を修行しました。

(*関連記事5ページ)

話題